
僕とバカと召喚獣達！

麗也

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

僕とバカと召喚獣達！

【Nコード】

N3080Z

【作者名】

麗也

【あらすじ】

ここ文月学園に転入してきた影譲麗也は2・F組の仲間達と楽しいく無事にちゃんとした生活を送ることができるのだろうか？
そして幼馴染との再会と展開は・・・

キャラクター紹介（前書き）

初めまして！初めて投稿してみました、下手くそですいません！
こんな下手な小説をみてくれたらとても嬉しいです。

キャラクター紹介

キャラ紹介

主な登場人物

影譲麗也 木下姉弟との幼馴染。観察処分者同様の力が使える。明久の次にバカ。

吉井明久 文月学園を代表するバカ。観察処分者。

坂本雄二 小学校の時は神童だった。不良。頭がとてもキレる。

ムツリーニ 土屋康太 保健体育以外は何もできないバカ。写真を撮るのが得意。
すぐ鼻血をだしてしまふ。料理が得意。

木下秀吉 演劇部に所属している。文月学園が誇る美少女？声帯模写ができる。

霧島翔子 学園首席。一途な女の子。自称坂本雄二の妻。

姫路瑞希 学年トップ2。料理の腕は殺人級。吉井明久に恋をしている。

島田美波 ポニーテールと釣り目が特徴の女の子。ヤンデレ。吉井明久に恋をしている

る。

木下優子 BL本が大好きな女の子。なぜか顔はカワイイはずなのにもてない。

清水美晴 同性愛者。島田美波のことが大好きな女の子。

久保利光 清水美晴同様同性愛者。吉井明久が大好きな男の子。

工藤愛子 ボーイッシュな女の子。保健体育は実技が得意。人をからかうのが好き。

～ストーリー紹介～

に転入してきた。

主人公影譲麗也は高校2年生の春にここ文月学園

送るのだろうか？

そして、2-F組に入るがいったいどんな生活を

そして、久々に会う幼馴染の反応は？

キャラクター紹介（後書き）

これから作品作りに入りますが、なるべく下手に書かないようにがんばりたいです。では、期待している人はあまり期待しないで下さい。でも、頑張って自分なりに書いてみます！

ゝ出会いゝ（前書き）

さっそく第一話投稿してみたいと思います！書き方は下手くそですが、そんなの気にせず読んで頂けたら幸いです。

～出会い～

影譲 side

月学園に僕は今日

桜が満開に咲くここ文

転校する・・・ちょっと心配だ・・・。

第一この方に来るのは大分久しぶりだ。

この僕のことなんて誰も覚えていないと

思うし、だいたい僕の事を覚えている奴

がいたとしても僕の知らない奴だろう・

たぶん・・・。もし、僕の幼馴染がこの

学校にいたらな～。。。。。

って！こんな事してられなかったんだ！

急げ、急げー！早くしないと遅刻しちゃ・

ドンっ！

いなかった

「痛っ！す、すみません！前ちゃんと見て
ものだから！」

めんね・・・って

君誰？」

ます！よろしく

「あっ！僕、今日転校する影譲麗也と言
いをお願いします！あの・・・君は誰ですか？」

君と同じ

間！悪いけど

られちゃうから

！・・・」

「あっ！僕？僕は吉井明久って言う名前で
学校の生徒だよ・・・って！もうこんな時
僕もう行くよ！遅刻しちゃうと鉄人に怒
ね！君も早く行ったほうがいいよー！

いいや。

あ・・・行っちゃった・・・僕も急いだ方が

る前に

それにしてもこの学校（文月学園）に入

けど大

振り分け試験？って言うテストをやった

ぶんと

丈夫かなー？僕、テストやる前にずい

よな

遊んじやったから全くできなかったんだ

最低と

どうしようか？もし、点数が悪すぎると

な

言われているFクラスに入っちゃうもん

うせ良い

本当にどうしようか？まっ！いいか！ど

んまり悪い

点数なんてとれるわけないし、それにあ

マイナス

方向に考えるとろくなことはないしな！

うんうん！

思考はダメ！プラス思考、プラス思考！

大丈夫さ・・・

きっと大丈夫なはず・・・うん、きっと

まあしかたがないよ！

てFクラスに入るしか

「やっぱり、こんな点数だよな〜ま、
遊んでいた自分が悪いんだし・・・諦め
ないよな〜」

スに入る事に

なんてこった・・・よりによってFクラ

やっぱり嫌だ

なるなんて・・・どうしよ、どうしよ！

いなくて孤独のまま

な〜・・・もしも、知っている奴一人も

うよ？

一年を過ごす事になったら僕泣いちゃ

題のFクラスの

そんな事を考えながら歩いていると問

いる・・・

前に来ていた・・・嫌なオーラが漂って

担任と思われる

そんな事を考えていると教室の方から

・なんだろう？

男性がクラスの皆に何かを話している・

担任（福原慎）
皆さんに紹介を

「それでは今日は転校生が来ているので

きてください。」

したいと思います・・教室に入って

・確か誰かが

あつ！僕とうとう呼ばれちゃったよ・・

のは、最初に決

言っていたなー！人の印象って言う

ら皆を圧倒させる

まるって・・うん！最初で決まるのな

ってやるぞ！もう、

ような自己紹介をしてやる！うん！や

決心はしたぞ！うん！やってやろう！

担任（福原慎）
んですよ？」

「どうしたんですか？入ってきてもいい

ばれたようだ・・

そんな考えをしている内にどうやら呼

ってやるっ！

もう決心はしてある！よし！堂々で行

は影譲麗也と

「失礼しまーす！まず、初めに僕の名前

お願いしまーす！」

申します！これから一年間よろしく

クラスの皆「・・・・・・・・・・・・・・・・」

か皆僕の事を見る

え？ちよつと唐突すぎたかな？なん

いう視線で見ている

視線が「バカだ・・コイツ・・」って

っ？

よ？いったい何がいけなかったんだろ

ことについて

そんな考えをしている時、誰かが僕の

しゃべっていた・・・

「あ！あの入確か校門の前でぶつかっ

たひとだ！えーっと

確か名前は・・・・・・・・」

「影譲麗也じゃろっ？おそろく・・・・」

よ・・・って！なんで

「あ！そうそう！確か影譲くんだった
秀吉影譲くんのこと知ってるの？」

しの幼馴染じゃから

「知っておるもなにも・・・麗也はわ
のう・・・」

クラスの皆「えええ——————
———」

んと

そこでしゃべっていたのは、吉井く

僕の幼馴染だった・・・

く出会いく（後書き）

いかがだったでしょうか？ほとんど書き方は原作と同じになっちゃいました。すいません！書き方があまり僕分らないのでちよつと同じになっちゃいましたが、もう少し！後、ほんのもう少しでいいんです！そうしたら、自分オリジナルな書き方を見つけてみせますので、もう少し、この書き方でよければこの小説を見ていただくとありがたいです。後、この小説を見ていただきありがとうございます！

*説明下手ですいません。あと、追加のキャラクター紹介 今更すいません！

福原慎 明久達の担任。

鉄人 西村教諭のこと。あと、補習担当の先生。

後、自分のことを小説に出していますが、

すいません。これもやっぱり欲望といいま

すか、欲と言いますか・・・とにかく自分

を出しちゃってすいません！でも、そんな

小説でもよければ、見てください！みていたければ、幸いです。

ゝ紹介ゝ（前書き）

一気に今日で二つ投稿させて頂きます！みていただければこちらとしても幸いです。今回は、ちょっとタイトルがタイトルなだけに小説はほんの少し短いです。

～紹介～

影譲 side

った

「いや、まさか秀吉がいたとは思わなか

よ～～！」

また

「いや・・・わしも正直びっくりじゃぞ？

麗也と会うとは思わなかったからのう。

「

秀吉

「いや、僕の方がびっくりだよ！それに
に会えて嬉しいし！」

わし

「そう言ってもらえると嬉しいのうー！
も会えて嬉しいのじゃ！」

はど

「あれ？そっいえば優子は？秀吉、優子
ここにいるの？」

也は

「姉上のことか？そっじゃったな・・・麗
なにも知らぬからのう・・・姉上はAク

ラス

にいるのじゃ。」

の優
んだ
「えっ！あの優子が？昔はバカだったあ
子がAクラスだって？へえー成長した
な。優子も。昔は・・・」

・
明久「あのー楽しく話している途中悪いけど・

と睨
「須川くん達が思いつきり影譲くんのこ
んでいるよ・・・ほら。」

『えっ？』

こと
「うう・・・本当だ・・・思いつきり僕の

いけ
「睨んでいるね・・・どうしてか分からな

ね・
「ど、これ以上秀吉と話さない方がいい

・・・まだ話したいけど。

の会
「（ここだけの話、須川くんは異端審問会
長だから、あんまり彼の前で女子とイ

チャ

メだ

イチャしゃべったり遊んだりしちゃダ
よ？殺されちゃうから・・・）

うと

僕にしか聞こえない声で吉井くんが言

の発

その場から離れた・・・でも、吉井くん

言はちよつと疑問に思う所がある・・・

・

秀吉は女の子じゃないんだけどな～～・

ま！いつか！気にしない！気にしない！

こと

「あ！影譲くん、まだ秀吉以外の人達の

は知らないとおもってから、一人ずつ自

己紹

介しようよ！」

????「おう・・・それがいいな。」

が自

そう言つと背の高い頭がつんつんな人

己紹介を初めた・・・

でも

よろ

「俺の名前は、坂本雄二ってんだ。代表坂本でもどっちでもいい・・・これからしくな。」

と寝

そうやってダルそうに自己紹介をする
てしまった。大丈夫なのかなー？

???「じゃあ、次は俺がやる・・・」

にで

そう言う和小柄な体格をした男性が前
て自己紹介を初めた・・

「・・・名前は土屋康太・・・」

たが

名前だけ言うとササッと小走りに走っ

う？

去り際に何かを落とした・・・なんだろ

う？

カメラ？カメラなんか何に使うんだろ

の・

「これは・・・授業の様子を撮るためのも

・・・」

「」「嘘だっ！」「」

たけ

うん？ものすごいツッコミをいれられ

れに、

ど、別に変なこととは言っていないよ？そ

ミを

さっきまで寝ていた坂本くんもツッコ

とっ

いれるくらいだから、きつと嘘が皆に

てはもう見え見えなんだろう・・・。

に平

「おい！ムツツリーニ・・・影譲の前でな

にい

然と嘘つくんだ！いいじゃねーかべつ

！！

つかは知ることなんだから・・・影譲！

このカメラはなあーいやらしいことを

する

ために使うカメラだ！」

！！

「へえーそうなんだー！ーってええー！
それって犯罪じゃないのー！」

「・・・・・・・・！！（ブンブン）」

必死に首をふっているけどもう遅いよ

??

事実知っちゃったし・・・

「さて！これで一応この場にいる奴全員

は紹

介し終えた・・・」

「まだでしょー！ー！ー！ー！まだこの

僕が

紹介をしていないでしょー！ー！全く・・・

・

雄二には呆れるよ・・・」

たな

「お！すまなかった・・・明久がまだだっ

・・・いいぞ・・・さつさとやれ。」

「まったく・・・じゃあ改めて紹介するね！

僕の

影譲

の！

――

名前は吉井あきひさ・・・ってなんで

くんと秀吉以外の二人は帰っちゃった

そんなに僕のことはどうでもいいのお

「・・・」

「・・・」

「吉井くん、行ってしまったね・・・」

「皆、行ってしまったのう・・・」

僕はある意味このクラスでやっていく

がでけると、この時心の底からおもっ

・・・

こと

た・

ゝ紹介ゝ（後書き）

すいません！予定より文が長くなってしまいました・・・でも、こんな小説でも読んで頂けると僕としては嬉しい限りです！

く誘いく（前書き）

応援頂いているようで嬉しいです！今回は秀吉と麗也が遊ぶ話です！見ていただけたら幸いです！

影譲 side

あーやつと授業全て終わったー！
慣れていないせいかずいぶんと時間を
長く感じたなー！さて！もう授業
は終わったし・・・もう疲れたし、帰
ろうかなー・・・

と、そんなことを思っているとひとりの
人が近づいてきた・・・うん？よく見た
ら秀吉じゃないか！いったいなんの用
だろう・・・

「麗也よ・・・今日・・・ひまかのう？」

「えっ！別に用事はないけど・・・」

「だ、だったら今日久しぶりに遊ば
ないかのう！わし、何もすること
がなくて悩んでおったんじゃが・

「・・・どうかのう?」

「うーん・・・どうしようかな? 今日、暇じゃないけど、疲れたからな・・・」

「あつ!別に無理じゃったらいいのじゃぞ?」

あ!そういえば秀吉と遊ぶのは久しぶりだな!ここで断ることもできるけど、せつかくの誘いだし、

なんか断るのも悪い気がするしな

!・・・ってアレ?僕ってこんな

優柔不断な男だっけ?と、とにかく

く!秀吉のせつかくの誘いだし、

遊んじゃおうか!

「いいよ!別に、僕も暇だったしさ!」

「ほ、本当かのう!じゃあ、帰ったらすぐに家に来るのじゃぞ?あつ

！わしの家は知っておるな？昔と
変わらない所にあるからのう！じ
ゃあのう！」

タタタタッ！

あ！行っちゃった・・そんなに嬉
しかったのかな？ま！僕も久し
ぶりに話せて嬉しいし！走ってか
・えろつと！

僕はなぜか足がとても弾んでいた
・・・なんだろう？

「ここだったよね？確か秀吉の家っ
て・・・」

僕は自分でも早いと思われるほど
早く秀吉の家に着いてしまった・
・うんっ？確か前にはこんな所

に花壇なんてなかったはずなんだ
けどな〜？ま、おおよそ考えつ
くのは、たぶん秀吉のお母さんが
飾ったんだろう・・・っと！そんな
事よりも早くいかなきゃ！秀吉待
たすのも悪いし・・・さっそくイン
ターホンをおさせてもらおうかな
？

ピンポーン

そうしてちょっと経った後にイン
ターホンから秀吉の声が聞こえた
・・・

「ちよつと、待つのじゃ。」

そうして数秒も経たないうちに秀
吉がドアの前に来た・・・って早い

な！

「さっ！さっ！早く入るのじゃ！」

僕は秀吉の家に入るのになぜかド

キドキした・・・

ゝ誘いゝ（後書き）

まだ秀吉と遊ぶ編はまだ終わっていないのでまたよんで頂くと幸いです。

ゝ思い出話ゝ（前書き）

今回でこの話が終われるよう、頑張って書きます！読んで頂くと嬉しいです！

く思い出話く

影譲 side

「おじゃましまーす!」

僕はなぜか急ぎ足で家の中に入った・

・

やっぱりちょっとおかしい!おかしい

よ?

僕・・どうしちゃったんだろう・・

そうやって考えていると、いつの間に

か秀

吉の部屋に入っていた・

「さてっ!何して遊ぼうかのう 麗也!」

「ちよつと待って!秀吉!さつきから取

り乱

し過ぎ!ちよつと落ち着こう?ね?・

「

「そ、そうじゃったな・・ちよつと気が

乱れ

ていた・・すまん・・」

気に

「あつ！別に謝らなくてもいいよ！特にしてないし・・・」

のう。」

「そうか？いやーやっぱり麗也は優しい

っとそん

「そ、そんな事言ったら照れるな～・・・
な事よりもなににして遊ぼうか？」

って特に

「そうじゃのう～・・・いや～実はこれい

しょうか

なにも考えてなかったのじゃ・・・どう
の～？」

聞いてい

う～ん・・・僕もここに来る前になにも

るのか聞

なかったし、持ち物もなにを持ってく

うか？

いていなかったし・・・本当にどうしよ

校ではあ

・・・うん？そういえば秀吉とは学

須川くん

まりはなせなかったな〜ま！ほとんど

ったって

たちの目線がこわくてあえて話さなか

そうだ！

言う事実があるんだけどね・・・あっ！

久しぶり

久しぶりっていうのもあるし、秀吉と

あるし・

に話そうかな〜？僕も話したいことが

・・・うん！決定！

話とか、

「あ、あのさ〜秀吉、僕と久しぶりに会

・や

思い出話とかしないかい？ほら！その・

メかな？」

りたい事とか考えつくまでさ〜・・・ダ

も麗也と

「・・・えっ？そ、そうじゃの〜！わし

あさっそ

話したいことがあるし・・・よし！じゃ

？」

くなにか話そうとしようかの〜麗也よ

揺しすぎ

「そ、そうだね〜ってさつきから秀吉動
じゃない？なにかあったの？」

だつてさ

「そ、それはこちらのセリフじゃ！麗也
つきからオロオロしてるじゃろう？」

ちよつと

「いや〜なんか秀吉と対面するとなんか
昔と違つて緊張するんだよね〜なぜか・

・
」

「・・・すまん。それはわしもじゃ・・・」

「・・・・・・・・・・・・・・・・・・」

たいに普

しばしの沈黙・・・う〜んなんか昔み

どうしよ

通に話すことができないかな？・・・

つかない？・・・

らノック

そんなことを考えているうちにドアか
がかかった・・・

トント

「・・・あ、誰なのじゃ？」

からあけ

「もう！私に決まってるじゃない！いいわよ？」

ガチャ

何の用じゃ？」

ってそちらの

男性は誰？」

かのつ？麗也

「ん？姉上よ・・・もう忘れてしまったのじゃ。影譲麗也じゃ・・・」

った？」

「あ！麗也なの！久しぶりね！元気だ

～～」

「うん・・・おかげさまで・・・（はあ

こんでるけど

「うん？なによ？柄にもなくなかなりおち

「・・・何かあったの？」

「うむ。実はのう・・・」

～説明中～

って二人とも

は一つね・・・」

教えるのじゃ。」

「！」

素直な気持ちを

いのよ」

と？」

説明してくれる

「・・・何かあったの？」

「うむ。実はのう・・・」

～説明中～

「ふん・・・なるほどね。久しぶりに会

緊張してるんだ・・・だったら解決策

「む？姉上よ・・・もったいぶらずに早く

「そうだよ！優子！さつさと教えてよ！

「それはね・・・なにも考えずにお互いの

そのまま言葉にしてぶつけちゃえばい

「・・・？言葉にしてぶつける・・・じゃ

「・・・優子、もうちょっと分かりやすく

かな？」

「んもっ！だから！思ったことをそのま

ま言っちゃえば

いいってこと!」

「「思ったことをそのまま言っ……」」

ちよつと遠慮し

「そうよ……だつて私から見たら互いに
てるようにみえるもの……」

見えたのじゃっ

「姉上から見たらわしらはそんなふうに
たのか……」

「確かに……優子の言つとおりかもね……」

」

・後は二人で

「ま……わたしからの意見はここまでよ・
どうかしなさい……」

ガチャ

た部分があつた

「うん……確かに僕もちよつと遠慮して
かも……」

「わしもじゃ、麗也……」

に思つたことを

「うん!じゃ、優子の言つてた通り、心

すぐに言っちゃおうかな〜？」

するのじゃ。」

「うむ。わしもこれからそうすることに

「じゃ！改めて話そうか！秀吉！」

「そうじゃの！麗也！」

楽しかった事

そうやって秀吉と昔のことや今のこと、

や困難だったこと、色んなことを話し

ていたら辺りは

もう暗かった・・・もう帰らなくちゃ！

そろ帰るね？」

「ごめん秀吉！もう暗くなったからそろ

「そうじゃの〜以外に早かったのう・・・

時がたつのは・

「・・・」

「そうだね・・・また今度遊ぼうね！秀吉

！今日はすごく

楽しかったよ！じゃあね〜！」

かったのじゃ！

「じゃあのう！麗也！わしもすごく楽し

また、遊ぼうのう！」

「うん！じゃあね〜秀吉またね〜！・・・

・・・」

「行ってしまったのう・・・」

「あんた達、あの後うまくいったのね・・・

」

「うむ！これも姉上のおかげじゃ！感謝

してるぞい！」

「あ〜ら・・・私なにかいったかしら？」

「相変わらず素直じゃないのう・・・まる

で素直じゃない

麗也みたいじゃのう・・・」

「ハックション！うう・・・誰か僕のうわ

さしたのかな？」

頭には今日のこと

そしてそんなことを思っているながらも

でいっぱいだった・・・。

ゝ思い出話ゝ（後書き）

いかがだったでしょうか？結構長く書いてしまいましたが最後まで読めてもらえたら幸いです。

『召喚戦争』（前書き）

あゝ本当にすいません！二日間もやらなくて・・・いろいろ事情があったもので・・・

そんなことよりも次に書く小説は試験召喚獣戦争編です！多少原作とカブりますが（もしかしたらすごくカブるかも）、見ていただけたら幸いです。

「召喚戦争」

影譲 side

「うん・・・今日はやけに眠たいな・・・」

本当に今日は眠すぎる・・・へたをしたら授

業中にも

寝てしまいそうだ・・・それにしても今日は

天気が良いな

そういう日には良いことがあるってよくお

じいちゃんが

言ってたな・・・よし！そうかんがえると本

当にいいことが

起きそうだ・・・

そうやって考えていると後ろから走ってき

ているような音が

聞こえてきた・・・

「おはようなのじゃー！麗也！」

「うん？誰かと思ったら秀吉じゃないか・・・

おはよう！秀吉！」

朝からまさか秀吉に会うなんて思わなかったな……

もしかしたらおじいちゃんが言ってた良いことって……

かな……？

「うん・やっぱり秀吉の笑顔を見るとなんか元気が出てくるな

……。」

「そ、そうか……そんな事を言われると照れるのじゃ……」

「ううん！そんな事ないよ！だって本当のことだもん！ホラ今だって

こんなにげん・き・ふうわあぁあ……」

「お主……元気になったと言っておるけれど、大分眠そうじゃの……
いったい昨日の夜はなにをやっていたのじゃ？」

「うん・確かゲームと遊びだったよ……
それですつとやっていたら、いつの間にか3時になっちゃってさ……
それでかな？眠いのは……」

そのせいか・・・な・・・ふわあああー・・・
口を開けるだけでくび

がでる・・・」

「お主はどれだけ暇なのじゃ・・・もっと自分を大切にするのじゃぞ？」

「うん・・・分かった・・・これからは夜の１時までにするよ・・・」

「それじゃあ変わらんじやろう・・・」

秀吉とそんな何気ない話をしているといつの間にか教室に着いていた・・・

「皆々～おはよう～!!」

僕は眠気を押し切ってあいさつをした・・・
うんうん！あいさつは大切

だよね！

「・・・影譲・・・麗也・・・だよな？」

そうやってあいさつを言つと須川君？とおぼしき人物が近づいてきた・・・

「うん！僕が影譲麗也だけど・・・何か用？」

「そうか・・・貴様が影譲麗也か・・・皆々コイ

ッを今すぐ拘束しろー!」

「ハッ! 須川会長!」

「えっ? なになに? なんか僕やった? って痛い痛い! 無理やりやらない

でよ! それにそのガムテープ何? まさか、僕の口に貼る気じゃないよね?

本当にやめ・・・ムグググ!」

「影譲麗也確保! これより異端審問会をはじめめる!」

う・・・なんだなんだ? なにが起こってるんだ?

「被告の罪状は?」

「ハッ! 被告影譲麗也は「朝から女子とイチヤイチヤしながら登校をしていた」

!です!」

「そうか・・・審議の結果・・・判決が下された・・・被告をロープ無しバンジー

ジャンプに処する・・・もういいぞ、被告のガムテープを外せ!」

「・・・プハッ! ハーハーまったく・・・君たちは僕を殺す気かい?」

登校するなど・

『当たり前だ！女子とイチャイチャしながら
死刑に値する行動だぞ！！！！！！』

「それにしてもなんだい？その、ロープ無し
バンジージャンプって？」

「そのままの意味だ・・・」

うん？待て待て僕・・・冷静に考えるんだ・・・
・普通バンジージャンプって

いうのはロープがあるはずだ・・・そして今
彼らがやろうとしているのは

ロープ無しバンジージャンプ・・・これすな
わち意味することは・・・

「死に値するっていうこと・・・ってことは君
たちは僕を殺すっていうことか！」

「今頃気づいたのか・・・バカか！お前は・・・」

「ハ・・・君たち・・・分かってないな～そん
なことしたらどうなるかって・・・」

「知っている、そんなことは・・・」

「だったら今すぐやめた方がいいよ？そんな

こと・・・」

れる・・・」

「これをやったら俺はこのクラスの英雄にな

「君たちはバカかい？」

そんなことを言ってる間に僕の体は窓のすぐそばまで来ていた・・・

うう・・・結構高いな・・・

「須川よ！やめるのじゃ！そんなことはいますぐ！」

「秀吉くっ助けて僕をくっ！！！」

「分かった！いま、助けに行くからのう！」

よかった・・・やっぱり持つべきものは友達だね！秀吉には感謝しきれ

ないよ・・・

「ダメだ・・・たとえ秀吉だからといって刑の執行を邪魔させる訳には
いかない・・・」

「ええい！こうなったらすぐに鉄人を呼んでくるのじゃ！ということぞ？」

麗也！もう少しだけ耐えるのじゃぞ？」

「え？行かないで秀吉！秀吉ーーーーー！」

「よし・・・そろそろ落とすか・・・」

「ま、待って！まだ落とさないでよ！頼むか

らな！」

「じゃ・・・」

ドンッ！

「うわゝゝ本当に死んじゃうってー！・・・」

「・

った・・・

僕はこの時本当に死ぬんだなって改めて思

枝に感謝だな・・・」

「ふーほ、ほんとうに危なかった・・・木の

僕は奇跡的に助かった・・・落ちてから地面

に着いてしまっ

死ぬんだろうなって思っていたけど・・・地

面に着く前に木の枝

感謝だな・・

に引っかけた助かった・・自然の恵みに

っさと席に座れ・・」

「おい・・お前らいつまで遊んでるんだ。さ

いるように見えるって

あ、確か坂本くんだけ？いまのが遊んで

だ？

このクラスの人たちはどこまでおかしいん

と質問するぞ？」

「よし・・全員座ったな・・唐突だがちよっ

ないか？」

「・・・お前ら、このクラス環境に不満は

！！！！！！！」

「大ありじゃあああ——————！！

壊れた窓に

す、すごい・・ま、確かにそうなるよね・・

壊れたちやぶ台・・このクラスじゃなかったとしても誰もが思うことだ・・

「そこでだ・・俺達はAクラスに召喚戦争を挑もうと思う・・」

「ええええ——————！！！！！！

」！

僕はそれを聞いた時無望だなとつい、思っ

てしまった……

「召喚戦争」（後書き）

すみません！序盤に思いつきり影譲麗也と秀吉のイチヤイチャ？な
ものを書いてしまつて・・・でもどうしても書きたかつたんです！そ
こはご了承ください・・・

次は召喚戦争の説明とDクラス戦に入るのを見ていただけたら幸い
です。後、今回長くなりすぎてすみません！後最後にもう一つ！秀
吉以外のキャラもちゃんと出させてみせます！・・・たぶん・・・い
や、絶対に！

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3080z/>

僕とバカと召喚獣達！

2011年12月17日12時03分発行